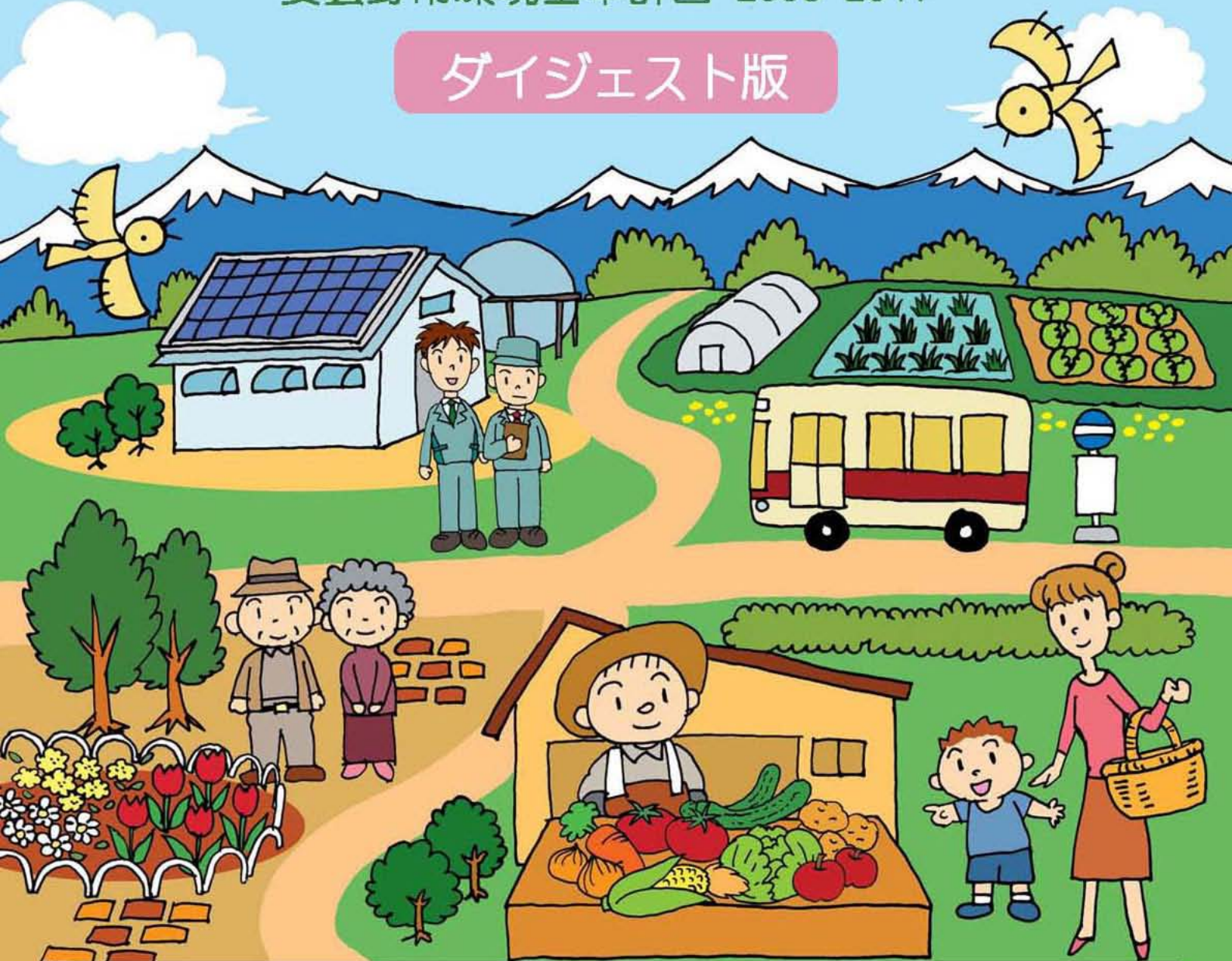


みんなであづみ野の環境を考えよう

安曇野市環境基本計画 2008-2017

ダイジェスト版



■ 計画の方向性 ■

私たち一人ひとりが安曇野に住むことに誇りを持ち、安曇野らしい景観や環境を守るため何をすべきかを考え、行動していくことが必要です。そのための行動指針として、「安曇野市環境基本計画」をつくりました。

この計画は、安曇野市の環境をより良くしていくために、市民・事業者・行政が、それぞれどのようなことに取り組むべきかを明らかにしたものです。

このダイジェスト版では、計画の中から、私たちがふだんの暮らしの中で取り組める項目をまとめました。

一人ひとりがそれぞれの立場で、できることから着実に取り組むことが、結果として地域全体、そして地球全体の環境をより良くしていくことにつながります。一人ひとりが、そしてみんなが力を合わせて、地道に取り組んでいきましょう。

■ めざすべき環境像 ■

この計画では、安曇野市のめざすべき環境像として、次の4つが実現された「まち」をイメージしました。

- ・ 豊かな自然と快適な生活空間
- ・ きれいな水と空気、安全な生活環境
- ・ 循環型の社会(ごみ減量、エネルギーの有効利用)
- ・ 自ら学び 考え 行動する市民

安曇野市環境基本計画のすがた

ひとくちに環境といっても、身近な環境から地球環境まで、さまざまです。
この計画では、安曇野市のめざすべき環境像の実現のために、「共存・共生」「安全・安心」
「循環型社会」「参加と協働」の4つの柱をたてました。

自然環境

循環型社会

【ごみ減量、省エネルギー・新エネルギー】

地球温暖化や資源の枯渇など、環境問題は地球規模で起こっています。これらを解決するためには、循環型社会をつくる必要があります。大量に廃棄されるごみを減らし、資源を有効に活用すること、地域で得られるエネルギーを積極的に利用し二酸化炭素の排出を減らす、などの方法があります。

共存・共生

【豊かな自然と快適な生活空間】

「豊かな自然」は安曇野の特徴です。私たちは自然からさまざまな恵みを受けて生活していますが、この豊かな自然が地球温暖化や人々の生活スタイルの変化によって、急激に変化しつつあります。「豊かな自然」を維持・創出していくために、まずは自然の仕組みの微妙なバランスや自然界で起きていることを知り、人と自然の共存・共生を図っていくことが求められています。

市民・事業者・行政

参加と協働

【自ら学び 考え 行動する市民】

安曇野の恵まれた環境を未来へ引き継いでいくためには、市民一人ひとりが環境の現状を自覚し、より良い環境づくりに取り組んでいく必要があります。

未来を担う子どもたちから大人まで、世代を超えて環境学習へ参加すること、地域内での連携や市民・事業者・行政の協働を図っていくことが必要です。



地球環境



生活環境

安全・安心

【きれいな水と空気、安全な生活環境】

市民の安全・安心を支えるものとして、きれいな水と空気は極めて重要です。安曇野の特徴である、豊富な地下水や清冽な川の流れ、そしておいしい空気がいつまでも続くように、守っていく必要があります。

また、私たちの暮らしがさまざまな公害に脅かされることのないよう、安全・安心のまちづくりを進める必要があります。

ダイジェスト版で 取り上げた内容

安曇野市環境基本計画本編では、4つの柱ごとに取り組みを整理しました。

このダイジェスト版では、計画の内容から、以下の8項目について、私たち市民が取り組める項目を取り上げました。

① 水を守る …… 4

② 森林・里山を守る …… 5

③ 農業を守る …… 6

④ ごみの3Rを進める …… 7

⑤ エネルギーの有効利用を進める …… 8

⑥ 公害を防ぐ …… 9

⑦ 住みよいまちをつくる …… 10

⑧ 環境学習や地域の活動へ参加する …… 11



水を守る

◆何が問題？◆

わさび田の湧水に代表される豊かな水は、安曇野の象徴です。しかし、地下水の利用に対する安曇野市の統一された基準などはないため、自然の恵みである地下水が涸れるおそれがあります。

また、市内には大小の川が流れていますが、これらの川の水は犀川に集まり、遠く日本海にまで流れていきます。川の上流域に暮らす私たちは、下流に汚れた水を流さないよう注意する必要があります。



◆どんなことをすればいい？◆

■水質を守る

- ・下水道が整備されている地域では、下水道に接続する。
- ・浄化槽をきちんと維持管理する。
- ・ごみや油、薬品などを流さない。
- ・廃食用油のリサイクル回収運動に参加する。
- ・農薬や除草剤が川に流れないように注意する。
- ・河川や堰(農業用水路)の清掃活動や美化に協力する。
- ・水質の異常に気づいたら、市へ報告する。

■水量を守る

- ・節水型の機器を使用する。
- ・散水・洗車に雨水を利用する。
(市では雨水タンクの設置に対して補助を行なっています。詳しくはp.14へ)
- ・休耕田や冬季の田んぼの水張り(ふゆみずたんぼ)に協力し、地下水をかん養する。

まとめ知識

◆豊かな湧水◆

安曇野市には、豊富な水量と良好な水質、安定した水温の湧水が多数あります。

これらの湧水は、「安曇野わさび田湧水群」として環境省選定の「名水百選」に選ばれており、わさびの栽培やニジマスの養殖などに利用されています。



湧水を利用したわさび田

◆ふゆみずたんぼ◆

ふゆみずたんぼとは、作付けのない冬季に水を張ることで、環境を保全し、生物の生息環境を創出しようというものです。地下水のかん養だけでなく、地域の振興につながるとして注目されています。



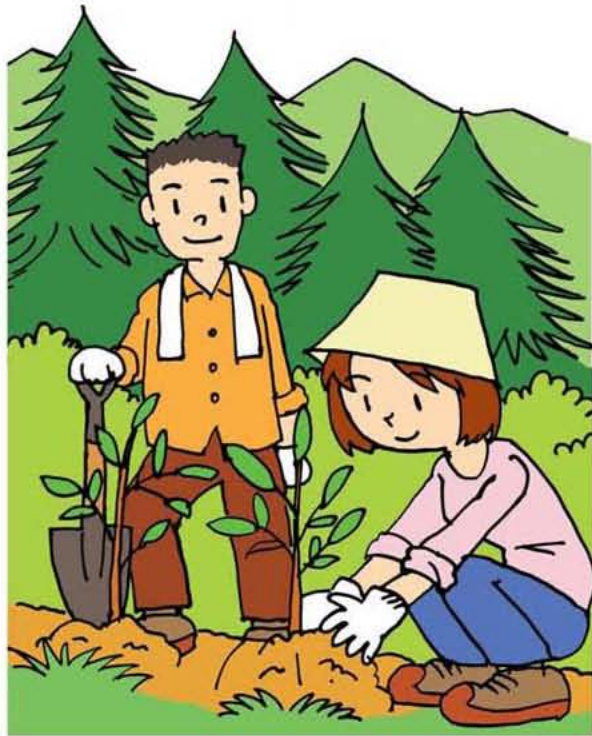
水を張ったたんぼにやってきた白鳥

森林・里山を守る

◆何が問題？◆

安曇野市の面積のおよそ2/3は森林です。しかし、人の手が入らなくなり、荒れてしまった森林が増えています。そのような森林は、水を貯える(水源かん養)機能や、土砂を安定化させる機能が低下し、災害の発生につながるおそれがあります。

また山麓部の里山では、森林の環境が変化し、野生動物の餌が少なくなった結果、野生動物による農作物への被害が生じています。



◆どんなことをすればいい？◆

■森林の維持管理をする

- ・ 林業体験や森林ボランティア活動へ参加する。
- ・ 間伐材など地元産木材を積極的に利用・活用する。

■里山の維持管理をする

- ・ 観察会に参加し、里山の現状を知る。
- ・ 間伐・植樹・下刈りなどに参加する。
- ・ 地域コミュニティによる、地域の里山づくりを進める。

まとめ知識

◆増加しつつある外来種◆

川や道路脇、あるいは耕作放棄地などを中心に、アレチウリやハリエンジュ(ニセアカシア)などの外来種が多く見られます。これらの外来種の増加により、もともと安曇野で見られていた生物の中には生息地を奪われて減少している種もあり、地域の生態系に悪影響を与えつつあります。

一度侵入した外来種を根絶することは非常に困難ですが、根気よく駆除を続けていくことが重要です。そして、これ以上分布を拡大しないような対策も必要です。



堤防でのアレチウリの駆除作業

農業を守る

◆何が問題？◆

農業従事者の高齢化、後継者不足、農産物の価格下落など、農業を取り巻く現状は厳しく、市内の農家や農地は減りつつあります。そして、耕作放棄地が増えています。

水田や農家集落などからなる田園風景は「安曇野らしい」風景です。この風景を守るためには、意欲ある農業者が安心して農業を続けられる環境を整えていくことが必要です。

◆どんなことをすればいい？◆

■農地を守る

- ・地元産の農作物を買う。
- ・耕作放棄地の活用に協力する。

■農業従事者を確保する

- ・就農希望者、農作業体験希望者の情報を市営農支援センターへ提供する。

■環境保全型農業・資源循環型農業を推進する

- ・農薬・除草剤・化学肥料の使用を抑え、有機肥料を利用して環境保全型農業を実践する。

■地産地消を推進する

- ・生産者と交流する。
- ・地元産農産物を取り入れた献立にする。



まとめ知識

◆地産地消は、地球温暖化対策にもつながる？◆

私たちが食べる食糧の半分以上は、海外の生産地から船や飛行機などで輸入されています。輸送の際には、燃料として石油を消費するため、二酸化炭素(CO₂)が排出されます。

この時、どのくらいのCO₂が排出されたのかを示す指標が「フードマイレージ」です。これは、重さ×輸送距離×排出係数(1トンのものを1キロ運ぶときに排出されるCO₂の量)で計算されます。遠くのものほどその値が大きくなり、逆に地元産品はその値が小さくなります。

地場産の農産物を食べることは、地球温暖化対策にもつながるのです。

フードマイレージの例(CO₂排出量)

食パン 1斤	米国産：148g 北海道産：35g
牛肉 100g	オーストラリア産：40g 鹿児島産：16g
かぼちゃ 1個(1kg)	ニュージーランド産：1,565g 北海道産：161g
たこ 1匹(200g)	モーリタニア産：100g 北海道産：28g

(東京までの距離を基準に算出)
出典：「大地を守る会調査データ」(平成15年)
<http://www.food-mileage.com>

ごみの3Rを進める[※]

※ごみを極力少なくする取り組みとして、減らす→リデュース(Reduce)、もう一度使う→リユース(Reuse)、形を変えて使う→リサイクル(Recycle)の頭文字をとって、3Rと呼ばれます。

◆何が問題？◆

安曇野市で収集されるごみの処理には、毎年莫大なお金がかかっています。もえるごみの多くは焼却処理を行なった後、埋め立て処分をしています。処分場の確保など多くの問題があります。不要なものを買わない、きちんと分別する、もう一度使えるものは使う、リサイクルする、などに取り組むことにより、ごみを減らす必要があります。



◆どんなことをすればいい？◆

■ごみを減らす(リデュース)

- 必要なもの以外は買わない。
- 買い物や調理を工夫する。
- 生ごみの水切りを徹底する。
- ごみの出ない商品を選ぶ。
- マイバック・マイカゴを持参する。
- ばら売り・量り売りを利用する。
- 市のガイドラインにしたがったごみ分別を徹底する。

■再利用する(リユース)

- ビンなど再利用できる商品を選んで購入する。
- ごみになりにくいもの、長く使えるものを選ぶ。

■形を変えて使う(リサイクル)

- 生ごみは、生ごみ処理機や段ボール箱などで堆肥化する。
(市では生ごみ処理機、コンポストの購入に対して補助を行なっています。詳しくはp.14へ)
- リサイクルショップを利用する。
- リサイクル法の対象製品(自動車・家電など)は、制度にしたがってリサイクルする。

まとめ知識

◆ 私たちが出すごみの量ってどのくらい？ ◆

私たちが1年間に出すごみの量は、どのくらいなのでしょう？ 年間の家庭系ごみ収集量と人口をもとに、1人あたりの1年間の量を計算してみました(平成18年度の実績)。もえるごみは、1人あたり138.8kgでした。もえるごみ1袋の平均は4kg程度ですので、単純に計算するとおよそ35袋となります。4人家族で考えると、年間140袋ということになります。

なお、もえるごみの処理にかかっている費用は、総額で約5億4千万円(平成18年度)で、市民1人あたりでは約5,400円となります。

市民1人あたりのごみの量(単位kg)

もえるごみ	138.8
紙類(容器包装込み)	48.0
プラスチック製容器包装	4.2
ペットボトル	1.1
白トレイ	0.1
ガラスびん	5.4
缶類	1.6
古着・古布	2.3
乾電池・蛍光管	0.4

(平成18年度)

私たちが取り組めること⑤

エネルギーの 有効利用を進める

◆何が問題？◆

私たちが普段使っている電気・ガスなどのエネルギー源は、そのほとんどが石油・石炭・天然ガスなどの化石資源に由来し、外国からの輸入に頼っています。これらの化石資源は、地球が長い時間をかけて作り出してきたものであり、その量には限りがあります。

また、化石資源は燃焼する時に二酸化炭素(CO₂)を排出し、地球温暖化の原因になっています。資源を大切に使うとともに、CO₂を極力出さないエネルギーの導入を進めることが必要です。



◆どんなことをすればいい？◆

■省エネルギーに取り組む

- ・省エネ型の電化製品を購入する。
- ・自動車を運転するときには、エコドライブを心がける。
- ・燃費がよく排出ガスの少ないエコ自動車を購入する。
- ・ふだんの生活の中での省エネに心がける。
- ・公共交通を利用し、ノーマイカーデーに参加する。

■石油に替わるエネルギーの導入を進める

- ・自宅に太陽光発電システムや太陽熱利用のシステムを設置する。
(市では住宅用太陽光発電システムの設置に対して補助を行なっています。
詳しくはp.14へ)
- ・バイオマス、風力、小規模水力など、安曇野で得られるエネルギーについて知り、導入を検討する。
- ・廃食用油(植物油)は捨てずに、市の回収指定場所へ。

まとめ知識

◆エネルギー源になる生ごみ◆

調理の際に出される生ごみは、堆肥化やメタンガス化などによって資源として利用できます。堆肥化を家庭で行なうには、生ごみ処理機を用いる方法が広がりつつありますが、エネルギーを使わずにコンポストや段ボール箱を利用して行なう方法もあります。

またメタンガス化では、発電を行なう施設が穂高グリーンセンター内につくられ、実用化に向けた研究が進められています。



穂高グリーンセンター内にある発電施設

公害を防ぐ

◆何が問題？◆

安曇野市では、現時点で重大な公害問題は発生していませんが、大気汚染、水質汚濁、騒音、悪臭、ごみの不法投棄など、毎年100～180件程度の苦情が寄せられています。
市街地化が進むことにより、光害、振動などの新たな公害が懸念されています。

◆どんなことをすればいい？◆

■騒音・振動を防ぐ

- ・生活・通学道路では低速で走行する。
- ・車の利用を減らす。



■光害を防ぐ

- ・最低限必要な明るさを知り、過剰な照明などを見直す。

■ポイ捨て・不法投棄をなくす

- ・ポイ捨てをしない。
- ・不法投棄の監視と、美化活動や一斉清掃をする。

■化学物質への対策

- ・農薬などの管理を徹底する。
- ・身の回りの除雪をこまめに行ない、融雪剤をなるべく使わないようにする。やむを得ず使うときは、非塩素系の融雪剤を利用する。

まとめ知識

◆光害とは？◆

電光看板(ネオンサインなど)、工場の夜間操業に伴う光など、本来暗いはずの夜が光によって明るく照らされると、生態系を狂わせたり、農作物などの生育を阻害するといった悪影響をおよぼします。これが光害です。

光害を防ぐには、照明が照らす範囲や方向を調整する、照明の必要性を見直す、室内の照明が漏れないようカーテンなどで遮光する、といった対策があります。

住みよいまちをつくる

◆何が問題？◆

安曇野市は周囲を山に囲まれ、農地や屋敷林など緑に恵まれた地域です。一方で、市街地では緑化を進める仕組みが整っていないため、周辺部に比べて相対的に緑が少ないのが現状です。緑化を進める仕組みをつくり、緑あふれるまちなみをつくっていく必要があります。

また、市内の各所には公園がありますが、ライフスタイルの変化や少子高齢化など、変わりつつあるニーズに現状の公園が対応し切れていないという問題もあります。公園などの維持管理、地域の景観育成活動などに市民が積極的に関わっていくことも必要です。

◆どんなことをすればいい？◆

■緑化の推進と花壇づくり

- ・自宅の庭先から花や緑を増やす。
- ・植樹や生垣に在来種を利用する。
- ・耕作放棄地や公園の、緑化・花づくりなどの維持管理に協力する。
- ・オープンガーデンづくりや花づくりコンテストへ参加する。

■公園づくりと維持管理に参加する

- ・地域の公園づくりに計画段階から参加する。
- ・身近な公園の維持管理に参加する。

■まちなみ・まちづくりに参加する

- ・地域の景観育成活動に参加する。
- ・屋敷林などの身近な歴史文化遺産に興味を持つ。
- ・道祖神まつりなどの地域にまつわる伝統行事を継承する。



まめ知識

◆学校における緑化の取り組み◆

小中学校では、単なる緑化にとどまらず、環境学習も視野に入れたさまざまな取り組みが進められています。

豊科南小学校では、校庭の一角に身近な生き物のすみかとなるピオトープをつくり、子どもたちが生き物の観察や維持管理を行なっています。ピオトープには小川、畑、森、さまざまな庭などがあり、四季を通じて子どもたちの環境学習の場として活用されています。継続的な取り組みが評価され、全国学校ピオトープ・コンクールで優秀賞を受賞しました。



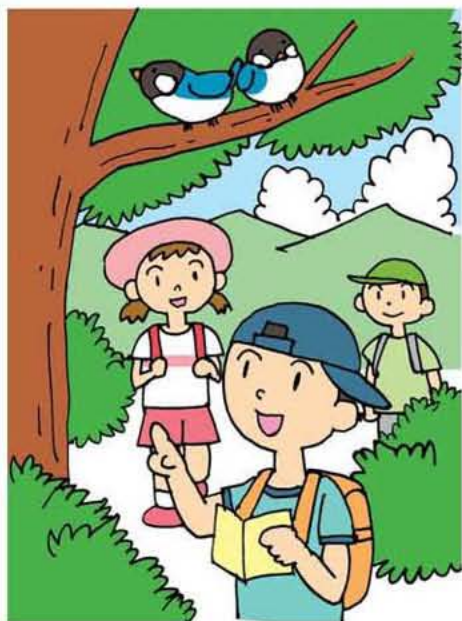
豊科南小のピオトープ「ふるさとの森」

環境学習や 地域の活動へ参加する

◆何が問題？◆

学校や地域などで環境について学ぶさまざまな取り組みが行なわれています。環境問題の解決のためには、自然により多くふれるといったことをはじめとして、私たち一人ひとりが環境についてより深く学び、行動を起こしていくことが必要です。

また、市内の各地域でさまざまな組織や団体による環境保全のための取り組みが進められていますが、その連携は十分ではありません。地域のつながりを活かし、一人ひとりが地域の活動へより積極的に参加していくことが必要です。



◆どんなことをすればいい？◆

■幼稚園・保育園・学校での環境学習を進める

- ・幼稚園・保育園での自然体験に協力する。
- ・小、中、高等学校での環境学習に協力する。

■生涯学習での環境学習を進める

- ・自然観察会や環境保全活動に積極的に参加する。

■環境の情報にふれる

- ・インターネットや広報紙などから、安曇野市の環境の情報を得て、活用する。
- ・子育ての際に、自然とのふれあいの機会を多くする。

■地域主体の環境保全活動を進める

- ・地域(隣組・区など)を通じた環境活動を進める。

まとめ知識

◆「モットイナイ運動」◆

環境分野の活動家として史上初のノーベル平和賞を受賞したワシントン・マータイさん(元ケニア副環境大臣)は、平成17年に来日した際、日本の「もったいない」という言葉を知って感銘を受けました。その後、「モットイナイ」という言葉を環境保護の合言葉として紹介し、世界的に広げました。マータイさんは、「『モットイナイ』は、発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再生利用(Recycle)、修理(Repair)の『4R』を表している」と説明し、世界に向けて「モットイナイ運動」を提唱しています。

重点的に取り組む項目

安曇野市環境基本計画は、おおむね10年先を見越した計画です。この期間中に、優先的、集中的に取り組む項目を整理しました。

それぞれの項目について、だれが、どのように、いつごろまでに行なうかの詳細を計画本編に記載しています。

なお、このダイジェスト版で取り上げた8つの項目のうち、「公害を防ぐ」については現時点で重大な公害の被害が発生していないため、重点的に取り組む項目からは割愛しています。

水を守る

- ・豊かな地下水を保全する
- ・身近な水辺を育み、水辺を活かしたまちづくりを進める

森林・里山を守る

- ・森林、里山の整備を促進する
- ・市内の生物情報を整理・収集し、生物に配慮した施策を行なう

農業を守る

- ・安曇野の農業を守る
- ・資源循環型農業を推進する
- ・地産地消のシステムをつくる

ごみを減らす

- ・ごみを減らす(リデュース)
- ・ごみのないまちを実現する

エネルギー

- ・自分たちの利用するエネルギーとローカルエネルギー*について知る

※太陽光や太陽熱などの身近なところで得られるエネルギー

住みよいまちづくり

- ・田園景観を保全する仕組みをつくる
- ・公園の再生や緑化の仕組みをつくる
- ・歩いて楽しいまちづくりを進める

参加と協働

- ・環境学習を推進する
学校などにおける環境学習プログラムを進める
地域における生涯学習を進める



1. 専任部署を設置します

環境基本計画を推進し、組織横断的な事業の調整と実施を行なう専任部署を設置します。この部署は、次の業務を行ないます。

- ① 環境基本計画の推進
- ② 組織横断的な事業の実施
- ③ 環境基本計画に関わる各会議、庁内調整等の事務局
- ④ 環境関連情報の収集と蓄積および発信、など

2. 推進体制を整えます

環境基本計画を実効的なものにするための推進体制を整備します。

- ① 「環境基本計画推進会議」(仮称)の設置
→ 推進体制づくりと進行管理の実施、より実務的な行動の指針をまとめる。
- ② 「市民環境ネットワーク」(仮称)の設置
→ 市民・事業者・行政の各主体の接点になり、計画の推進、調整、進捗状況の把握、検証などを行なう。
- ③ 「環境行動計画」の策定
→ 各主体が具体的に何をどのように取り組めばよいのかを明らかにする。具体的な数値目標も盛り込む。
- ④ 環境マネジメントシステム導入の検討
→ 庁内における計画の確実な進行のための仕組みを導入する。

3. 情報を提供します

環境に関するさまざまな情報を一元的に提供し、活用できる体制を整えます。

- ① 広報やウェブページ上での情報公開
- ② 「環境フェア」の開催
- ③ 「あづみ野環境塾(仮称)」などイベントの開催、など



市の補助金制度

私たちの暮らしの中でできる省エネルギー・資源活用のうち、市には次の補助金制度があります(平成19年度末時点)。交付には、市内に住所を有し居住する市民であり、市税等の滞納がないことなど、いくつかの条件があります。

● 生ごみ処理機器等購入費補助金

【概要】 ごみの減量化と再資源化を図るため、市内の一般家庭ならびに店舗および事業所が購入する、生ごみを堆肥化処理する機器とせん定枝等粉碎機の購入に対して補助金が交付されます。

【対象】 生ごみ処理機器、ボカシ容器・コンポスト、せん定枝等粉碎機

● 住宅用太陽光発電システム設置補助金

【概要】 新エネルギーの活用による自然環境の保全のため、住宅用太陽光発電システムの設置に対して補助金が交付されます。

【対象】 自ら居住する市内の住宅に設置する方

● 住宅用雨水貯留施設設置補助金

【概要】 地下水かん養、雨水流出抑制、災害時の生活用水確保を図り、循環型まちづくりを推進するための雨水貯留施設の設置に対して補助金が交付されます。

【対象】 雨水を貯留するための構造をもった施設で、住宅の雨どい等に接続し架台等に固定するもの

補助金の詳しい内容は、『家庭ごみ・資源物 出し方の手引き』をご覧ください。環境課または各総合支所生活環境係へお問い合わせください。

なお上記のほかに、国・県にもさまざまな補助制度があります。

計画策定までの経緯と経過

この計画は、平成18年度～平成19年度にかけて策定しました。

計画策定は、公募・推薦の市民32名による「安曇野市環境基本計画策定委員会」が中心となり、進めてきました。策定委員会は、計29回開催され、その間庁内における調整会議、市議会議員や地球温暖化防止推進員との意見交換、アンケート、パブリックコメントなどを行ない、さまざまな立場の方の意見を集約し、素案を作成しました。これを受けて市は環境審議会へ諮問し、答申を得てこの計画をまとめました。

■ 環境基本計画策定委員会

平成18年7月～平成20年2月 《計29回》

■ あづみ野環境塾(イベント)

あづみ野探検隊 《計3回》

身近な生きもの調査説明会 《計3回》

■ 環境審議会での審議 《計5回》

■ あづみ野環境フェア2008

平成20年2月23日、24日

知ってトクするエネルギーの使い方

私たちが家庭でできるエコな暮らしのヒントをまとめました。
 少しの工夫でCO₂の排出を減らし、財布にもやさしい生活ができます。
 できるところから取り組んでみませんか。

機器など	工夫	CO ₂ 削減量 (kg)	年間節約額 (約・円)	メモ	
キッチン	電気冷蔵庫	ものを詰め込みすぎない	18.0	960	詰め込んだ場合と、半分にした場合との比較
		無駄な開閉はしない	4.3	230	JIS開閉試験の開閉を行なった場合と、その2倍の回数を行なった場合との比較 JIS開閉試験：冷蔵庫は12分毎に25回、冷凍庫は40分毎に8回で、開放時間はいずれも10秒
		開けている時間を短く	2.5	130	開けている時間が20秒間の場合と、10秒間の場合との比較
		設定温度は適切に調整	25.3	1,360	周囲温度15℃で、設定温度を「強」から「中」にした場合
		壁から適切な間隔で設置する	18.5	990	上と両側が壁に接している場合と上と片側が壁に接している場合との比較
	電子レンジ	葉菜(ほうれん草、キャベツ)の下ゆでに電子レンジを利用	13.9	960	ガスコンロではなく、電子レンジを下ごしらえに使用した場合の比較
		果菜(ブロッコリー、カボチャ)の下ゆでに電子レンジを利用	15.0	1,030	
		根菜(ジャガイモ、里芋)の下ゆでに電子レンジを利用	13.1	940	
	ガスコンロ	炎が鍋底からはみ出さないように調節	5.5	360	水1ℓ(20℃程度)を沸騰させる時、強火から中火にした場合(1日3回)
	リビング	エアコン	夏の冷房の設定温度を、28℃を目安に	12.4	670
冬の暖房時の室温を、20℃を目安に			21.8	1,170	外気温度6℃の時、エアコン(2.2kW)の暖房設定温度を21℃から20℃にした場合(使用時間：9時間/日)
冷房は必要ときだけ			7.7	410	冷房を1日1時間短縮した場合(設定温度：28℃)
暖房は必要ときだけ			16.7	900	暖房を1日1時間短縮した場合(設定温度：20℃)
フィルターを月に1回か2回掃除			13.1	700	フィルターが目詰まりしているエアコン(2.2kW)とフィルターを掃除した場合の比較
照明器具		電球形蛍光灯に取り替える	34.4	1,850	54Wの白熱電球から12Wの電球形蛍光灯に交換した場合
		点灯時間を短くする	8.1	430	54Wの白熱電球1灯の点灯時間を1日1時間短縮した場合
テレビ		テレビを見ないときは消す	13.1 6.2 30.6	700 330 1,640	1日1時間テレビを見る時間を減らした場合 ブラウン管：25インチ/液晶：20インチ/プラズマ：32インチ
		ブラウン管の場合			
		プラズマの場合			
パソコン	使わないときは、電源を切る	12.9 2.2 5.2 0.6	690 120 280 30	1日1時間利用時間を短縮した場合	
	デスクトップの場合				
	ノート型の場合				
暖房	ガスファンヒーター	室温は20℃を目安に	19.0	1,220	外気温度7℃の時、暖房の設定温度を21℃から20℃にした場合(使用時間：9時間/日)
		必要なときだけつける	31.0	1,980	1日1時間運転を短縮した場合(設定温度：20℃)
	石油ファンヒーター	室温は20℃を目安に	25.4	820	外気温度7℃の時、暖房の設定温度を21℃から20℃にした場合(使用時間：9時間/日)
		必要なときだけつける	41.2	1,360	1日1時間運転を短縮した場合(設定温度：20℃)
その他	自動車	ふんわりアクセル『eスタート』	194.0	11,370	発進時、5秒間の省エネ意識。5秒間で20km/h程度に加速で十分な効果
		加減速の少ない運転	68.0	3,980	スマートドライブコンテストの操作別燃料消費削減割合による
		早めのアクセルオフ	42.0	2,460	
		適宜なアイドリングストップ	40.2	2,360	5秒の停止で、アイドリングストップ。短い時間のエンジン停止でも省エネ効果がある
	お風呂	家族で間隔をあけずに入浴する	88.9	5,730	2時間放置により4.5℃低下した湯(200ℓ)を追い炊きする場合(1回/日)と比較
		シャワーは不必要に流したままにしない	29.7	2,920	45℃のお湯を流す時間を1分間短縮した場合
	温水洗浄便座	使わないときはフタを閉める	14.3	770	フタを閉めた場合と、開けっぱなしの場合との比較(貯湯式)
		便座暖房の温度は低めに設定	10.8	580	年間で電気26.4kwhの省エネ 便座の設定温度を一段階下げた(中→弱)場合(貯湯式) 冷房期間は便座暖房をOFF
		洗浄水の温度は低めに設定	5.7	300	洗浄水の設定温度を年間一段階下げた(中→弱)場合(貯湯式) 暖房期間：周囲温度11℃ 中間期：周囲温度18℃ 冷房期間：周囲温度26℃
	掃除機	部屋を片付けてから掃除機をかける	2.2	120	利用する時間を1日1分間短縮した場合
集塵バックを適宜取り替える		0.6	30	バックいっぱいになりゴミが詰まった状態と、未使用のバックの比較	

出典：(財)省エネルギーセンター「家庭の省エネ大辞典」(平成19年10月発行)



安曇野市環境宣言

私たちが住んでいるこの美しい地球に、そしてこの安曇野にも危機が訪れています。これまでの無秩序な開発や社会経済活動、過剰なまでの消費生活などにより、公害や地球温暖化などの現象をもたらし、自然環境や生活環境をおびやかしています。

古代以来、人の生活とともに築かれてきたこの安曇野の環境を未来へ引き継いでいくには、今までの私たちの暮らしを見直し、そして社会のあり方を考えていかなければなりません。それは、経済効率優先の社会から、多少の不便さも良しとする社会への価値観の転換を意味しています。

私たちは、「地域」、「世代間」、「市民・事業者・行政」が連携することによって、より良い安曇野の環境をつくっていきます。

人と自然が調和した生活環境をつくり、将来を担う子どもたちに引き継いでいくために、以下の行動を実践することをここに宣言します。

- 豊かな自然と農業を育み、人と自然が共存・共生する社会を目指します。
- 水と空気を守り、快適で安全・安心な暮らしを目指します。
- 身近な暮らしと社会を見つめ直し、資源やエネルギーを大切にした循環型社会を築きます。
- 環境学習や環境保全のための地域活動を実践し、豊かな地域環境を次世代に引き継ぎます。

■ 問い合わせ先 ■

安曇野市 市民環境部 環境課

TEL 0263-82-3131 (内線211) / FAX 0263-82-6622

メールアドレス kankyous@city.azumino.nagano.jp

平成20年3月作成